

新たな労働組合の活動を創造する

とむら しんいちろう
戸村 伸一郎

●自動車総連 副事務局長

新型コロナウイルスは発見から1年以上経過した今も、世界で感染拡大が続いている。日本においても関東1都3県への緊急事態宣言は本日から2度目の延長が始まっている（2021年3月8日現在）。

変異型ウイルスも「感染率が上がる」「ワクチンが効かない」など可能性のみがマスメディアで報じられている中、全国各地で発見されるなど、依然予断を許さない状況であることは間違いない。

全国各地にある労働組合は感染防止のため、これまでの「徹底した面着を基本」とする活動形態の変更を余儀なくされており、春の取り組みが真っ盛りの今、多くの役員から戸惑いの声を聞く。

私はこのピンチをチャンスと捉え、これまでの活動を一から見直す絶好の機会と捉えている。

労働組合は2020年12月現在の加入率が17.1%と多少昨年を上回ったものの、決して高い数字になっていない。それは労働組合への期待や加入する意義を見出せない人が多くいることを示すと考えている。

それぞれの労働組合には、多くの諸先輩方が守り抜いてきた素晴らしい歴史や伝統があると思う。

しかし、労働組合の役員になりたい人の減少が課題としてあり、役員になったとしても短時間で次の人に交代することも、これまで多く見てきている。その都度「この状況で労働組合の歴史や伝統が受け継がれていくのか」という疑問を感じてきた。

労働組合には「経営側との交渉」「文体行事

を通じた結束の醸成」「共済事業を通じた不測の事態へのサポート」など組合員の生活の安定、維持、向上に向けてやるべき活動は様々あると考える。しかし数年前から、「その活動をやること」はあくまで「目的を実現するための手段」であり、まずは「これまで行ってきたことは何のために行なわれているのか」、すなわち「目的」が一番に置かれているのか疑問を感じてきた。

これまで行ってきた活動を粛々と行うことも重要かもしれないが、社会の変化が著しい今こそ、様々な活動を時勢に合わせたものに変化させていくことも求められている。

恐らくではあるが、役員を務められている皆さんもそれに気づき、ではどうしたら良いのか、悩んでおられると思うし、いざ行動を起こすとすれば多大な力（組織力、リーダーシップなど）が必要だと思う。

新型コロナウイルス感染拡大により面着活動が出来づらくなった今、新たな取り組みを検討し実行するチャンスと考えてみるのも良いのではないか。

検討の過程では、「手段」ではなく「目的」即ち「自労組は何を目指して活動を行っていくのか」を一番に考え、執行部、或いは組合員にも広くコンセンサスを取りながら「目的を具現化する手段」を検討していくことが必要だと考える。手段を時勢に合わせたものにし目的を実現することで、労働組合の魅力や組合員であることの意義を感じて頂けるのではないかと思う。

ある意味、今は新たな労働組合の活動を創造していく絶好のチャンスではないか、と考える。